

第9回新生ふくしま復興推進本部会議

○日時：平成25年8月7日(水) 16:15-16:30

○場所：特別室（本庁舎2階）

【内堀副知事】

ただ今から、新生ふくしま復興推進本部会議を開催します。

まず議題の一つ目「平成26年度国の予算に向けた取組について」説明をお願いします。

【企画調整部長】

資料1をご覧ください。

「平成26年度国の予算に向けた取組について」でございます。

1ページ目は6月12日、知事に行っていたいただいた要望をスタートに、各部局とも本県の実情を国に訴えてまいりました。

8月末には概算要求の締め切りとなります。

また、福島復興再生協議会、明日、復興庁において日程公表予定と聞いております。近く行われる予定でありますので、本県の実情をしっかりと伝えて参りたいと考えております。

2ページ目をご覧ください。

その際、訴えるべき視点の確認としまして、7つ用意しました。左側が現状・課題、右側が提案・要望の視点であります。

1番目が、福島発の医療機器開発の速やかな事業化による医療産業集積の加速など、2番目が再生可能エネルギー先駆けの地の実現に向けた施策の推進、3番目が営農再開に向けた技術研究の推進、4番目が事業再開に向けた施設整備の促進に必要な支援の推進、5番目が復興公営住宅整備の推進、6番目が子供たちの健全な育成に向けた体験活動や施設整備等の推進、7番目が道路整備でございます。このような視点の基で項目を整理し、福島復興再生協議会等を通じて国への働きかけを行って参りたいと考えております。

以上でございます。

【内堀副知事】

この関係について、総務部長お願いします。

【総務部長】

いろいろな拠点整備等が進むこととなりますので、財源措置も合わせてしっかり要望をお願いしたい。

【内堀副知事】

知事、お願いします。

【知事】

26年度の国の予算は、我が県の復興にとっても極めて大事な予算であり、これをしっかり取ることが復興の追い風となる。

そして、それぞれの要望が概算要求に入るように、福島県の実情をしっかりと訴えてもらいたい。

それから、2番目の原子力安全の確保。6月の予算要望の際に、大事なことは国がもっと前面にできるようにと何回も繰り返して言った、知事会でも話をした。そして昨日内堀副知事を政府内に行かせた。今日また菅官房長官から国が一步前へでるという話で、これは極めて大事な政府発表だと思うので、これが具体的に一步でも二歩でもしっかりと進めてもらわなければならないと思っている。これを皆さんもしっかり頭の中に入れて、それぞれの予算要望をしていただきたい。それが福島県にとっての安全・安心の前進となる。

以上

【内堀副知事】

次の議題に入ります。「LNG基地建設」について商工労働部長から説明をしてください。

【商工労働部長】

資料2をご覧ください。

相馬LNG基地建設計画についてでございますが、この石油資源開発株式会社のLNG基地につきましては、かねてより誘致に取り組んできたところでございます。その概要が明らかになりましたのでご報告を申し上げます。

資料3ページをご覧ください。

石油資源開発株式会社、この会社は国内外において、石油・天然ガスの探鉱・開発を行っている会社でございます。

具体的な計画ですが資料の7ページをご覧ください。

建設候補地は相馬港の4号埠頭周辺で、7ページの赤の点線で囲まれたところでございます。

事業費は今のところ400億から500億の見込みで、雇用規模は約100名、平成30年の完成見込みで進めているところでございます。

具体的な完成イメージは資料8ページをご覧ください。今現在のイメージということでご理解いただきたいと思います。

このLNGの基地建設を支援するため、新地町が策定しました復興推進計画、これが8月2日に復興大臣の認定を受けておりますので、この件についてもご報告を申し上げます。

LNGの建設が計画的に進みますよう、関係部局と連携して取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

【知事】

この話は震災前からあり、実を結ぶことは非常にうれしい。このプロジェクトは雇用問題、経済活性化、相馬地方はもとより福島県全体の復興に大きな力になると思っている。それぞれ連携を密にしながら進めてもらいたい。

【内堀副知事】

次の議題に入ります。「土木部の復旧・復興加速化の取組」について土木部長から説明をしてください。

【土木部長】

お手元にご覧いただき、浜通り地方の復旧・復興加速化事業概要という冊子をご覧ください。

このたび土木部におきまして、浜通りの公共土木施設の復旧・復興工事の加速化に向けましてパンフレットを作成したところでございます。

これにつきましては、浜通り復興加速化チームというものを作っておりまして、その中の「見える化チーム」で作成したものでございまして、県民目線で分かりやすく、図表や写真、目標を記載するなど、進捗状況を分かりやすく表したものでございます。

内容といたしましては、復興公営住宅の整備であるとか、民間住宅の支援のメニューなど、被災者の居住の安定確保に関する項目でありますとか、あとは公共土木施設の復旧状況、津波被災地の復興まちづくりの各地区の計画など、県民の皆様が関心の高い項目を掲載しております。

このパンフレットにつきましては、仮設住宅の集会センター等で県民へ直接配布したいと考えております。

また、国等への要望活動にも活用してまいりたいと考えております。

なお、本書に記載しておりますデータや写真はホームページでも公開して、定期的に更新をしていく予定でございます。引き続き復旧・復興の進捗状況を県民へ分かりやすく説明して行きたいと考えております。

以上でございます。

【内堀副知事】

今までこういった冊子を県が作ることはなかった。ビフォーアフターが非常によく分かるので、なかなか良い取組だと思う。

あとは、作るだけではなく、なるべく多くの方に見ていただき、復興が形になってきていることを知っていただくことがなにより大事なので、土木部だけでなく関係部局でも復興が前に進んでいるということをいろいろな機会でもうまくPRしていただけたらと思います。

直轄いかがでしょうか。

【直轄理事】

冊子の後ろの方には各地区の復興計画が載っております。そういった意味では被災された方にとっての未来図といたしますか、今後の姿というものが見えるようになっておりますので、ぜひ我々も活用したいと思ひますし、県民の方にも知っていただく、それから県外の方々にも知っていただきたいと思ひます。

【内堀副知事】

それでは以上で、本部会議を終了いたします。